

仙北市スーパーシティ構想について

1 主旨

仙北市は、少子高齢化、人口減少、基幹産業の振興等の地域課題を解決するため、規制緩和や近未来技術を活用して地域活性化に資する実証実験等に取り組んでいる。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地域医療の逼迫、県外往来の減少、飲食・ホテル業等の雇用環境の悪化等、仙北市を取り巻く地域課題を深刻化させ、市民サービスの在り方をゼロベースで見直す必要に迫られている。

スマートシティモデル事業で取り組んできた AI・IoT、自動運転、無人航空機等の実証試験、仙北市近未来技術実証ワンストップセンター（2021 年設置予定）等を活かして近未来技術の中長期的な適用を視野に入れながら、すぐにでも実用化できる汎用技術の新たな組合せ等でアフターコロナの新しい生活様式に合わせた市民サービスの社会実装化を目指す。

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて、市民に寄り沿う“ちょっと新しい技術”での市民サービスをスモールスタートさせ、他地域へ水平展開できる持続可能な中山間地版スーパーシティのモデル構築を目指す。

2 仙北市の概要

(1) 地理

総面積は1,093.56平方キロメートルと秋田県で3番目に広く、県全体の9.4%を占め、その約8割(892.05平方キロメートル)が森林地帯。中央に水深日本一を誇る田沢湖があり、東に高山植物が豊富な秋田駒ヶ岳、南は仙北平野へと開けている。

(2) 観光

角館の武家屋敷、桧木内川堤の桜、豊富な泉質を誇る温泉(市内に60弱の温泉施設が存在)、八幡平などの自然、角館祭りのやま行事、上桧木内の紙風船上げなどの小正月行事をはじめとする多くの伝統文化等、観光資源がある。

(3) 気候

冬季には全域で平均気温が氷点下を下回る厳しい寒さで、積雪量1mを超える豪雪地帯となっている。

(4) 交通

盛岡と秋田を結ぶ国道46号線のほか、国道105号線と国道341号線などの道路網があり、鉄道としては市の南部を秋田と東京を結ぶ「秋田新幹線」、大曲から盛岡を結ぶ「JR田沢湖線」、西部を北秋田市の鷹巣駅から本市の角館駅を結ぶ「秋田内陸縦貫鉄道」が走る。

3 先端的サービス分野の例

(1) 移動

例：デマンドタクシー、コミュニティバス等を活用した簡易版MaaS
軽自動車版CASE等による高齢者等の運転継続支援
5G、GPS、LiDAR等による雪道対応の自動運転車両

(2) 農業

例：IoTとGAP等によるベテラン農業者が持つノウハウの形式知化
市場ニーズに合わせたデマンド型農業生産
ローカル5Gを活用した無人耕作機

(3) 防災

例：スマホやスマートスピーカー等を活用したデジタル防災無線
ドラレコ、IoT等による自然災害の予測、避難勧告の発出
IoT、ドローン等による有害鳥獣の監視及び被害の防止

(4) 観光

例：ホテル送迎バス、タクシー等を活用したMaaSによる二次交通の提供
通過型観光地から滞在型観光地に向けたワーケーションの推進
インバウンド観光客に対応できる遠隔通訳、AI通訳、スマートマスク

(5) エネルギー

例：燃料電池自動車の利用促進及び災害時の非常用電源としての使用
玉川温泉水からの水素生成および水素ドローン等の利活用の促進

(6) 環境

例：食品ロスの削減。廃棄物のリサイクル向上、プラ容器リユース促進。
田沢湖の水質改善による、クニマスが棲息できる田沢湖の再生

(7) 物流

例：貨客混合、物流MaaS等による農産物の最適輸送モデルの構築
水素ドローンによる物流サービスの実装

(8) 医療介護

例：温泉を活用したヘルスケアプログラムの推進
ドローンによる処方薬等の配送、遠隔診療

(9) 教育

例：対面とオンラインを組み合わせたハイブリット型教育
近未来技術と融和したデジタル生涯学習

(10) 行政手続き・決済

例：スマホで手続きのデジタル市役所、手数料・税等のキャッシュレス納付
市民に寄り添う秋田弁AIによる24時間365日の住民対応